(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3905566号
(P3905566)
(45)発行日　平成19年4月18日(2007.4.18)　(24)登録日　平成19年1月19日(2007.1.19)

(51)Int.Cl.　　F I
B65D 41/40 (2006.01)　　B65D 41/40
B65D 41/62 (2006.01)　　B65D 41/62　Z

請求項の数 3　(全 6 頁)

(21)出願番号　特願平7-346135
(22)出願日　平成7年12月12日(1995.12.12)
(65)公開番号　特開平9-165057
(43)公開日　平成9年6月24日(1997.6.24)
審査請求日　平成14年11月11日(2002.11.11)
審判番号　不服2005-21711(P2005-21711/J1)
審判請求日　平成17年11月10日(2005.11.10)

(73)特許権者　000228442
日本クラウンコルク株式会社
東京都千代田区内幸町１丁目３番１号
(74)代理人　100092200
弁理士　大城　重信
(74)代理人　100084607
弁理士　佐藤　文男
(72)発明者　近江　英彦
神奈川県平塚市長瀞２番１２号　日本クラウンコルク株式会社　平塚工場内
(72)発明者　叶野　裕児
神奈川県平塚市長瀞２番１２号　日本クラウンコルク株式会社　平塚工場内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】簡易開栓キャップ

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
スカート壁下端から垂下したリングタブを有する簡易開栓キャップにおいて、前記リングタブの上方部に開栓時に指がカットエッジ部に移動することを阻止する指移動阻止突部を形成してなり、該指移動阻止突部が前記リングタブの上方端の両側から左右に突出した突起であることを特徴とする簡易開栓キャップ。
【請求項２】
前記突起が、前記リングタブの上方端の両側から左右に突出した下面がアール状になった突起である請求項１に記載の簡易開栓キャップ。
【請求項３】
スカート壁下端から垂下したリングタブを有する簡易開栓キャップにおいて、前記リングタブの上方部に開栓時に指がカットエッジ部に移動することを阻止する指移動阻止突部を形成してなり、該指移動阻止突部が前記リングタブを上方部が左右外側に張り出すように非円形に形成することによって形成される張出し部であることを特徴とする簡易開栓キャップ。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、スカート壁下端から垂下したリングタブを有する簡易開栓キャップに関する。
【０００２】

【従来の技術】
従来、図６に示すようにスカート壁下端から垂下したリングタブ５２を有し、該リングタブに指を挿入して引き起こして、スカート壁５１のリングタブ付け根部から天面壁５３に形成したスコア５４を破断することによって、該キャップを容器６０の口部から除去して開栓できるようにした簡易開栓キャップ５０が多用されている。
【０００３】
【発明が解決しようとする課題】
上記従来のリングタブ付き簡易開栓キャップは、図６（ｂ）に示すように、開栓に際してリングタブ５２に繋がるキャップ本体の破断部分５６がそり返るので、カットエッジ部５７が露出することは構造上避けることができない。通常の開栓に際して、リングタブ５２に指を挿入して上方に引き起こすことにより、前記カットエッジ部に指が触れることなく安全に開栓できるものであるが、より安全にするためには前記カットエッジ部をガードして物理的に指が触れないようにするのが望ましい。
【０００４】
本発明は、上記実情に鑑み創案されたものであって、リングタブを有する簡易開栓キャップにおいて、キャップ開栓時に破断したスコアのカットエッジ部に指が触れることを確実に防止してより安全に開栓することのできる簡易開栓キャップを提供することを目的とする。
【０００５】
【課題を解決するための手段】
本発明者は、上記課題を解決するために種々実験を繰り返した結果、開栓に際してカットエッジ部に指が触れるのを防止する方策として、該カットエッジ部に指が行くのを阻止する方法を知得し、本発明に到達したものである。
【０００６】
即ち、本発明の簡易開栓キャップは、スカート壁下端から垂下したリングタブを有する簡易開栓キャップにおいて、前記リングタブの上方部に開栓時に指がカットエッジ部に移動することを阻止する指移動阻止突部を形成してなり、該指移動阻止突部が前記リングタブの上方端の両側から左右に突出した突起であることを特徴とする技術的手段を採用することによって解決したものである。前記突起の一形態として、前記リングタブの上方端の両側から左右に突出した下面がアール状になった突起として構成しても良い。
【０００７】
また、上記問題点を解決する本願の他の発明に係る簡易開栓キャップは、スカート壁下端から垂下したリングタブを有する簡易開栓キャップにおいて、前記リングタブの上方部に開栓時に指がカットエッジ部に移動することを阻止する指移動阻止突部を形成してなり、該指移動阻止突部が前記リングタブを上方部が左右外側に張り出すように非円形に形成することによって形成される張出し部であることを特徴とするものである。
【０００８】
【発明の実施の形態】
以下、本発明の実施形態を図面をもとに詳細に説明する。
図１は、本願の第１発明の実施の形態に係る簡易開栓キャップ（以下単にキャップという）を容器６０に装着した状態を示す。この実施形態のキャップ１は、金属キャップ本体２のスカート壁４の下端から延びたリングタブ取付片５の下端にプラスチック製のリングタブ６が一体に取り付けられている。前記リングタブ取付片５の上部両側から、従来のキャップと同様に、スカート壁４を介して天壁３面にスコア７が形成され、リングタブ６を引き起こすことによってスコアが破断され、容器から該キャップを離脱して開栓できるようになっている。
【０００９】
以上の構成は従来と同様であるが、本実施形態のキャップは、上記キャップにおけるリングタブ６の上方端の左右に開栓時に親指及び中指が破断したカットエッジ部に移動するのを阻止する指移動阻止突部を構成する角状の突起8_1、8_2を一体に形成してあることを特

徴としている。

【００１０】

本実施形態のキャップは、以上のように形成され、開栓時には図２に示すように、人差指をリングタブ６に挿入して、リングタブを上方に引き起こすことによって、スコア７が次第に破断する。その際、特に中指はカットエッジ部方向に移動し易いが、カットエッジ部方向に移動しようとしても角状の突起８_1に当たって移動を阻止されるので、リングタブを急角度でキャップ天壁上方に引き上げても中指及び親指がキャップのカットエッジ部９に当たることがなく、安全に開栓することができる。

【００１１】

以上、本願第１発明に係る開栓時に指がカットエッジ部に移動するのを阻止する簡易開栓キャップの好適な実施形態を示したが、本発明は該実施形態に限るものでなく、種々の設計変更が可能である。例えば、前記実施形態ではリングタブをキャップ本体と別体のプラスチックで形成したが、勿論キャップ本体と一体あるいは別体の金属で形成してもよい。また、指移動阻止突部は、前記実施形態ではリングタブの上方両側に設けてあるが、開栓に際して親指がカットエッジ部に触れる恐れは殆どないので、中指が当たる側のみに設けても可能であるが、必ずしもリングタブに右手の人差指を挿入して開栓するとは限らないので、両側に設けることが望ましい。また、その形状も図３に示すごとく、種々の形状に変更することができる。

【００１２】

図３において、(ａ)に示す簡易開栓キャップ１０は、リングタブ１１の上方に設けた角状の突起１２_1、１２_2の先端部を上方に略９０°折り曲げた形状に形成したものであり、前記実施形態における突起の変形例を示している。また、(ｂ)に示す簡易開栓キャップ１３は、指移動阻止突部をリングタブ１４の上方両側から下面がアール状になった突起１５_1、１５_2で形成してある。さらに、(ｃ)に示す簡易開栓キャップ１６では、リングタブ１７の形状を側片の中央部がくびれた逆台形の非円形状に形成することによって、上部両側に張出し部１８_1、１８_2を形成し、該張出し部が指移動阻止突部を構成している。さらにまた、(ｄ)に示す簡易開栓キャップ１９では、リングタブ２０の形状を逆三角形状に形成することによって底辺が上側に位置し、該底辺の両側端部が外側に張出して張出し部２１_1、２１_2となり、指移動阻止突部を構成している。該簡易開栓キャップ１９では、開栓に際して中指を跳ね上げても指が斜辺に沿って外方に逃げるので、カットエッジ部に接触することが防止される。

【００１３】

図４は、本願の第２発明の実施形態に係る簡易開栓キャップを容器に装着した状態を示す。

この実施形態の簡易開栓キャップ３０は、従来と同様な構成のタブリング付き簡易開栓キャップにおいて、リングタブ３１を引き起こすことにより破断されるスコア３２の上面を薄膜を構成する合成樹脂フィルム３３で被覆したことを特徴とするものである。本実施形態においては、前記合成樹脂フィルム３３をキャップ天面からスカート壁を覆うように構成し、破断部となるスコア３２の内側天面部に強接着し、その外側は剥離し易いように弱接着するのが好ましいが、全体を弱接着にしても良い。

【００１４】

本実施形態の簡易開栓キャップは、以上のように構成され、開栓時にリングタブ３１を引き上げると、図４(ｂ)に示すように、破断部分３４と共に合成樹脂フィルム３３は破断部外側もキャップ本体から剥がれて、剥離部分３５が破断部の外側に広がりカットエッジ部３６を覆う状態となる。従って、開栓時に万一指を起こしてカットエッジ部に移動しても、カットエッジ部は合成樹脂フィルムで覆われているので、直接カットエッジ部に指が触れることがなく、安全である。

【００１５】

なお、上記実施形態では、薄膜を合成樹脂フィルムで形成したが、薄膜は必ずしも合成樹脂フィルムに限らず、ホットメルトで形成しても良い。さらに、薄膜で覆う範囲もキャッ

プ天面全体を覆わなくても、図５に示すように、指を起こした場合、触れる恐れがある範囲のカットエッジ部のみを覆う大きさに形成しても良い。なお、図５に示す簡易開栓キャップ４０において、４１が薄膜を形成する合成樹脂フィルムである。

【００１６】

【発明の効果】

以上のように、本発明によれば、リングタブを有する簡易開栓キャップにおいて、キャップ開栓時に破断したスコアのカットエッジ部に指が触れることを確実に防止してより安全に開栓することのできる。

また、請求項１～３の構成によれば、従来のリングタブの構成を変更するのみで、開栓時にカットエッジ部への指の移動を確実に防止することができる。

さらに、請求項４～６の構成によれば、従来の簡易開栓キャップを薄膜で被覆するのみで容易に構成でき、かつカットエッジ部に直接指が触れるのを確実に防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【図１】本願の第１発明の実施の形態に係る簡易開口キャップを容器に装着した状態を示し、（ａ）はその斜視図、（ｂ）は側面図である。

【図２】その開栓途中の状態を示す斜視図である。

【図３】（ａ）～（ｄ）は本願の第１発明に係る簡易開口キャップのそれぞれ別の実施形態を示す側面図である。

【図４】本願の第２発明の実施の形態に係る簡易開口キャップを容器に装着した状態を示し、（ａ）はその斜視図、（ｂ）はその開栓途中の状態を示す斜視図である。

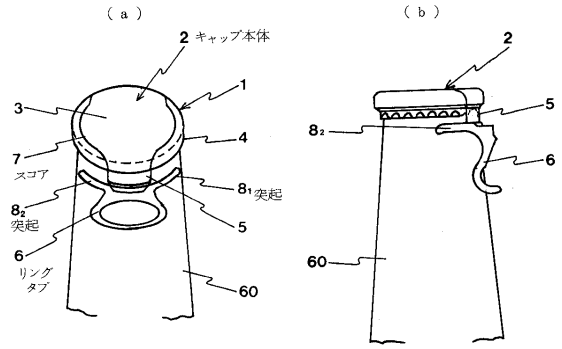
【図５】本願の第２発明の他の実施の形態に係る簡易開口キャップを容器に装着した状態を示し、（ａ）はその斜視図、（ｂ）はその開栓途中の状態を示す斜視図である。

【図６】従来の簡易開口キャップを容器に装着した状態を示し、（ａ）はその斜視図、（ｂ）はその開栓途中の状態を示す斜視図である。

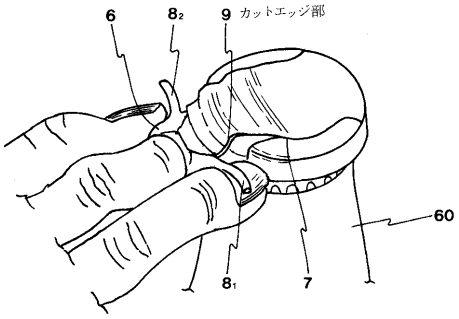
【符号の説明】

１、１０、１３、１６、１９、３０　簡易開口キャップ
２　キャップ本体
３　天壁
４　スカート壁
５　リングタブ取付片
６、１１、１４、１７、２０、３１　リングタブ
７、３２　スコア
8_1、8_2、15_1、15_2　突起
18_1、18_2、21_1、21_2　張出し部
３３、４１　合成樹脂フィルム
３５　剥離部分
３６　カットエッジ部

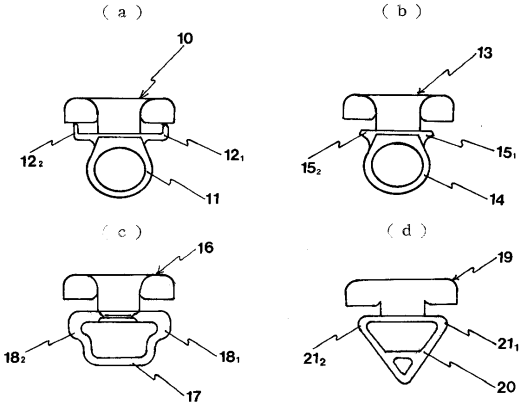
【図１】



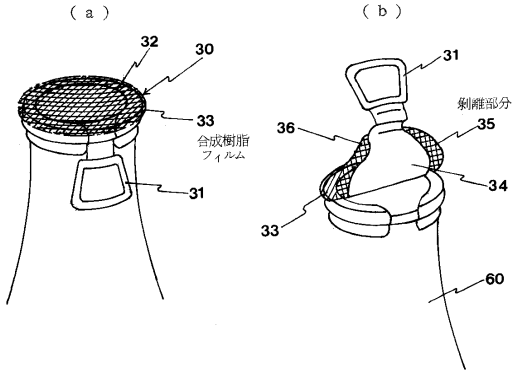
【図２】



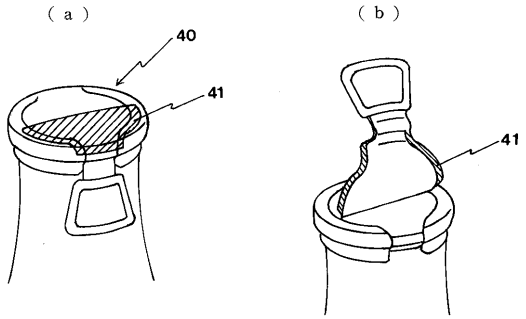
【図３】



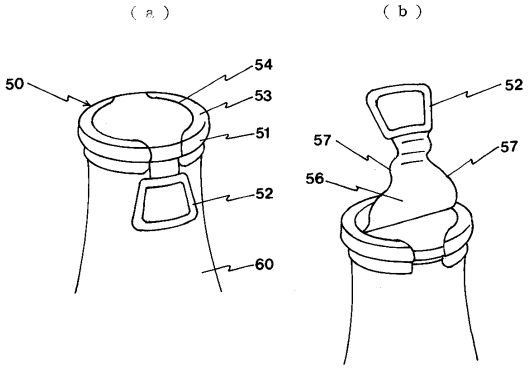
【図４】



【図５】



【図６】



フロントページの続き

(72)発明者　佐藤　浩
神奈川県平塚市長瀞２番１２号　日本クラウンコルク株式会社　平塚工場内

合議体
審判長　寺本　光生
審判官　中西　一友
審判官　関口　勇

(56)参考文献　実開平２－１４４５５３（ＪＰ，Ｕ）
実開平７－３３８４８（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
B65D41/40
B65D41/62